

1 平成 22 年度に求められる取組

(1) 年間指導計画の作成

- ① 地域や学校の実態及び体力運動能力調査の結果，児童の心身の発達の段階や特性等を十分考慮する。
- ② 体育分野の各領域別授業時数については，生徒の能力・適性，興味・関心等に応じて，3 年間を見通した計画を作成する。
- ③ 保健分野の学年別授業時数については，3 年間を通して適切に配当するとともに，生徒の興味・関心や意欲などを高めながら効果的に学習を進めるため，学習時間を継続的又は集中的に設定する。

(2) 単元や教材の開発

運動に必要な知識や技能を身に付けるだけでなく，運動の行い方などの科学的理解をもとに運動の技能を身に付けたり，その理解を深めたりするなど，知識と技能を関連させる。

(3) 配慮すべきこと

新学習指導要領の第 1，2 学年では，2 年間分の指導内容が示されているので，1 年間で実施するのか 2 年間で実施するのかを明らかにし，移行期間中の指導計画を作成する。

2 教育課程編成上，参考となる取組例

(1) 豊かなゲームパフォーマンス

球技系の運動において，「ボール操作」及び「ボールを持たないときの動き」は，ゲームパフォーマンスを豊かにする上でどちらも大切なものである。ボールの落下点や目標地点に走り込む，相手のプレイヤーをマークするなど，ボール操作にいたるための動きや守備にかかわる動きに関する技能である「ボールを持たないときの動き」を学習カードや作戦ボードを使用し，ゲームの前後に何度も確認する活動を取り入れた。「ボールを持たないときの動き」をより一層生徒に意識させて運動したことで，ゲームパフォーマンスが大変豊かになり，結果的に生徒の運動量も増えた。

(2) ICT の活用

器械運動においてパソコンを数台用意し，単独技のスロー再生や複数技の組み合わせを再生し，技の細かいポイントを確認できるように場を設定した。また，VTR を使用して自分の技を継続的に記録することで，課題を視覚的に確認しながら活動することができた。

3 教育課程編成上の Q&A

Q1 体育大会での組み体操は，体力を高める運動となるか。

A1 学校行事のための体育ではない。学習指導要領に示された内容を行うこと。ただし，学習成果の活用を場を年間指導計画に関連させ位置付けておくことは大切である。

Q2 学習指導要領には，球技の類型の例示としてタグラグビー等が示されているが，ここで示された種目を球技で示された運動種目に替えて取り扱うことは可能か。

A2 「内容の取扱い」で示された内容を取り上げることが必要である。巻末の参考は，加えて実施することが可能な種目である。小学校からの接続を踏まえ，教材の工夫として単元の始めの段階で取り上げたり，履修した内容に加えて取り扱ったりすることは可能である。